

「うるう秒」廃止に関する動き

2009年9月にスイス（ジュネーブ）で開催されたITU-R SG7 会合では、「うるう秒」の廃止を提案するITU-R 勧告改訂案 TF.460-6 の採択をめぐり、廃止に賛成する主管庁と反対する主管庁とで意見が対立した。そこで、次回 SG7 会合での議論のため、本件に関し各国主管庁に広く意見を求めることとなった。

1 背景

「うるう秒」とその調整方式については、ITU-R（国際電気通信連合無線通信部門）勧告 TF.460-6（標準周波数・時刻電波）にて定義されており、1972年より実施。

「うるう秒」の挿入がGPS 受信端末、NTP タイムサーバー、通信システムや航法システム、その他電子システムにいろいろな困難を引き起こしていることから、2000年からITU-R SG7 WP7Aにおいて、将来の世界の標準時（協定世界時）の検討に着手している。

2 各国の立場

- ・会合参加国のうち、米、露、仏、伊、独の各国は、賛成の立場。国際天文学連合（IAU）も、廃止に反対しないという立場。
- ・英、中は、反対の立場。技術的内容については異論がない状況。

3 ITU-R における議論の状況

2009年9月8日～11日までスイス（ジュネーブ）において開催されたWP7Aでは、技術的な検討が尽くされたとして、ITU-R 勧告改訂案 TF.460-6 がSG7 に送付された。

同じく9月15日に開催されたSG7 会合においては、WP での異議が解消されず、勧告改訂案は採択されなかった。議長から、勧告改訂案のRA-12（2012年無線通信総会）への送付が提案されたが、反対する主管庁の同意が得られなかった。そのため、各国主管庁に広く意見を求め、本意見調査の結果、反対する意見の根拠が技術的な場合にはWP7A で再検討することとし、技術的でない場合にはRA-12 に委ねることとなった。